教育情報の公表項目

１．大学の教育研究上の目的に関すること

建学の精神

建学の精神は「光と塩」である。

聖書マタイ伝にある「汝らは地の塩（中略）、汝らは世の光（中略）」からいただいている。塩は味の基本として食生活を支え、光は日々の生活に明るさと暖かさをもたらす。この博愛の心で、北海度の風土に根ざした歴史と伝統、文化を基盤に、高い見識と専門的な知識、技能を備え、情操豊かで心身共に健全な人材の育成を目指す。

教育理念

「光と塩」の建学の精神を基に「知識・徳性・技術」を磨く。

教育目的

本学の建学の精神の基づいて設定されている。

わが国は科学技術宇の発展に伴って社会の複雑化、情報化、国際化が著しく、高度な知識と技術を修めた専門職業人の養成が求められている。本学の食物栄養科、保育科は専門的知識、技能、実践力を備え、心豊かにして、社会の発展に貢献し得る人材の養成を目的とする。

各学科の目的・教育目標

食物栄養科

教育目的

現代社会に生きる人々の健康の維持・増進のため、栄養指導、栄養管理、食品衛生、給食管理及び食育等の幅広い分野について教育研究を行い、高度な知識と技術及び実践力を修得し、栄養士・栄養教諭の専門職業人として多様な領域で活躍することができる人材を養成する。

教育目標

国民の健康の維持・増進に欠かすことのできない食品と栄養に関する幅広い知識、専門的技術並びに堅実な実践力を修得する。併せて、専門職業人・社会人として社会の多様な領域で活躍、貢献できる資質と見識をそなえた人材を養成する。

保育科

教育目的

子どもと子どもの周辺に生じる様々な変化に対応し、子どもの心と体の仕組みや発達とその支援について実践的に学ぶとともに、子どもに関わる幅広い分野における教育研究を行い、高度かつ最新の専門的知識・技術を有する保育士、幼稚園教諭の専門職業人として活躍することのできる人材を養成する。

教育目標

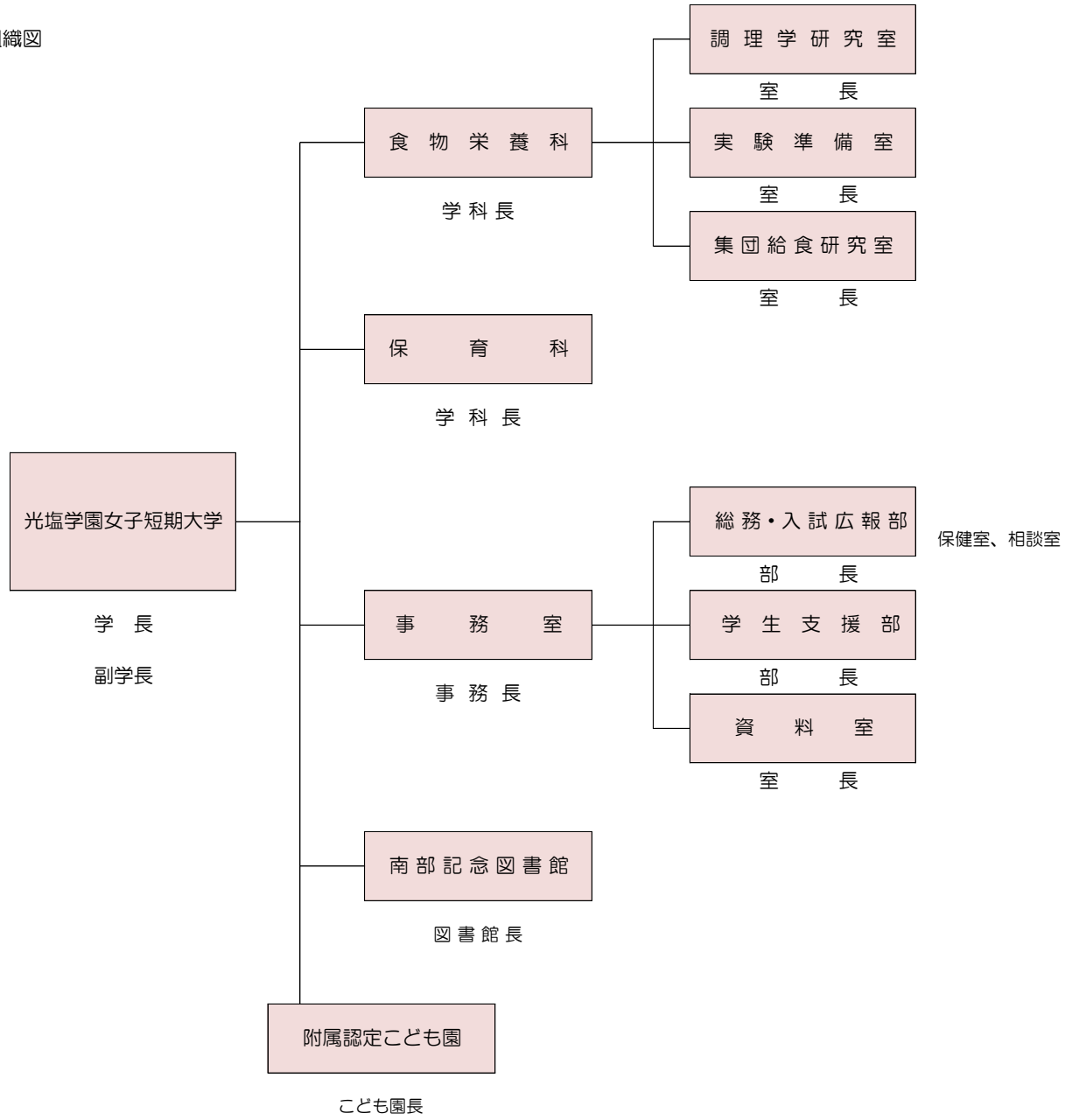
子どもの健全な育成と保護者支援、福祉の充実を目指し、教育と福祉の領域で高度な専門的知識と技術、実践力を修得する。併せて、専門職業人・社会人として変容し続ける家庭、社会に貢献できる資質と見識をそなえた人材を養成する。

学則

学校案内の学則関係へ

2．教育研究上の基本組織に関すること

組織図



3．専任教員数

専任教員　　2024.5.1現在

学　科　名	教授	准教授	講師	助教	助手	合　計	教員一人当り学生数
食物栄養科	4	2	2	1	0	9	14.6 名
保　育　科	3	5	2	0	0	10	5.4 名

専任教員の年齢別及び職階別人数

70歳以上	60～69歳	50～59歳	40～49歳	30～39歳	29歳以下
2名	5名	4名	4名	4名	0名

非常勤講師

食物栄養科	共通	保育科	合　計
7	9	20	36

※　専任教員と非常勤講師の人数比率：教員34.5%、非常勤講師65.5%

4. 入学者に関する受け入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

本学の建学の精神「光と塩」に基づいて教育目標を設定している。その目標を理解し、社会の発展に貢献し得る意欲にあふれた人物を受け入れる。併せて、本学が設定する基礎的な学力を有し、専門領域に適性があり、個性豊かで心身ともに健全な人物であること。

(1) 食物栄養科

- 本学における学修に必要な基礎的な学力を身に付けている人
- 自然科学に興味があり、自己の資質を磨き、人間として成長しようとする人
- 食と食生活、栄養の専門領域を通して社会の発展に貢献しようとする人

(2) 保育科

- 本学における学修に必要な基礎的な学力を身に付けている人
- 子どもの成長、発達に関心があり、自己の資質を磨き、人間として成長しようとする人
- 保育者、幼児教育者等として社会の発展に貢献しようとする人

入学者数（社会人入学者内数）

学　科　名	２０２０年度	２０２１年度	２０２２年度	２０２３年度	2024年度
食物栄養科	98(5)名	79(3)名	72(4)名	66(5)名	61(3)名
保　育　科	78(1)名	71(0)名	53(0)名	28(0)名	26(0)名

収容定員、学生数、定員充足率　　2024.5.1現在

学　科　名	入学定員	収容定員	在籍学生数			充足率
食物栄養科	100 名	200 名	1年　63 名	2年　68 名	計　131 名	65.5%
保　育　科	100 名	200 名	1年　27 名	2年　27 名	計　54 名	27.0%

留学生数及び海外派遣学生数

留学生数

学　科　名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
食物栄養科	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
保　育　科	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名

海外派遣学生数

学　科　名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
食物栄養科	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
保　育　科	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名

学生の進路（卒業者数・進学・就職状況）

食物栄養科	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
卒業者数	92名	94名	71名	61名
就職者数	77名	79名	65名	48名
進学者数	7名	3名	2名	4名

保　育　科	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
卒業者数	９４名	74名	66名	52名
就職者数	８７名	72名	61名	43名
進学者数	1名	0名	1名	1名

卒業生の免許・資格取得状況

食物栄養科	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
栄養士免許状	86名	86名	69名	56名
栄養教諭二種	14名	10名	18名	18名
健康管理士	19名	13名	6名	2名

保　育　科	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
幼稚園教諭二種	89名	69名	65名	46名
保育士資格	88名	70名	65名	49名

過去3年間の退学者、休学者、留年者数

	退学者		休学者		留年者	
	食物栄養科	保育科	食物栄養科	保育科	食物栄養科	保育科
2021年度	8名	3名	10名	0名	5名	0名
2022年度	8名	3名	9名	0名	5名	0名
2023年度	8名	0名	6名	1名	6名	0名

5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施に関する方針）

本学の教育目標に基づいてカリキュラムを設定している。学科別に基礎科目と専門科目からなり、基礎科目は豊かな人間形成と専門科目の理解を助け、専門科目は社会の要請に応え得る高度な専門的知識と技術、応用力を修得する。

（１）食物栄養科

- 基礎科目と専門科目を理論的に設置し、高度な知識、技術、実践力、応用力を修得する。
- 栄養士免許、栄養教諭免許、健康管理士一般指導員資格を取得するための科目を体系的に設置する。
- 広い視野から教養、想像力、豊かな人間性を身に付け、生活能力と健全な職業観を養う。

（2） 保育科

- 基礎科目と専門科目を理論的に設置し、高度な知識、技術、実践力、応用力を修得する。
- 幼稚園教諭免許、保育士資格を取得するための科目を体系的に設置する。
- 広い視野から教養、想像力、豊かな人間性を身に付け、生活能力と健全な職業観を養う。

6．学修の成果にかかる評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学のカリキュラムにおいて、卒業要件科目の到達目標に達して卒業単位を修得した者に卒業を認定し、短期大学士の学位を授与する。併せて、免許・資格要件単位を修得した者に免許・資格を授与する。専門的知識、技能の修得とともに、豊かな人間性を身に付けることが求められる。

（１）食物栄養科

- 卒業に必要な単位を修得し、免許・資格取得の際には必要な単位を修得していること。
- 食や栄養に関する専門家として、様々な課題を捉え、その解決に向けて努力する力をそなえていること。
- 幅広い教養と豊かな人間性をそなえ、社会の発展に寄与できる資質を身に付けていること。

（2） 保育科

- 卒業に必要な単位を修得し、免許・資格取得の際には必要な単位を修得していること。
- 保育者、幼児教育者等として、様々な課題を捉え、その解決に向けて努力する力をそなえていること。
- 幅広い教養と豊かな人間性をそなえ、社会の発展に寄与できる資質を身に付けていること。

学　科　名	学位及び専攻分野
食物栄養科	短期大学士（食物栄養）
保　育　科	短期大学士（保育）

授業科目の構成

各学科の教育課程には、次の授業科目が設定されています。

基礎科目　：　幅広く深い教養・総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するために開設している科目

専門科目　：　専攻分野の高度な専門的知識・技術を修得するために開設している科目

学習成果について

幅広い教養、高度な専門的知識、技術、実践力を身に付け、豊かな人間性を養い、社会で活躍できる就業力を獲得する。卒業時には自己に適した職業に就くことができる。

（1）建学の精神「光と塩」と教育理念「知識・徳性・技術」を基に充実した学園生活を送り、自己研鑽に努める。

（2）自らの立場を客観的に自己評価することができ、自己を向上させる意欲がある。

（3）他者の立場から考えることができ、その意見を受け止め、自らの考えや思いを正しく伝え、協調、協力して発展させようと努力する姿勢がある。

（4）健全な職業観を養い、社会における自己の役割、責任を自覚し、職場で直面する様々な課題の解決に取組む姿勢を育む。

（5）社会人、職業人に求められる資質・能力を身に付け、自己を成長させるとともに、社会の発展に貢献しようとする姿勢がある。

食物栄養科の学習成果

（1）わが国では少子高齢化が進み、家族構成や生活時間の変化等に伴い、健康に絡む様々な問題が生じている。生命の維持、健康の保持・増進、疾病予防等にかかわる課題を捉え、その解決に向けて適切に対応し得る、食と栄養の専門家を目指す。

（2）基礎科目と専門科目のカリキュラムにおいて卒業要件単位を修得できる。

（3）基礎科目と専門科目のカリキュラムにおいて栄養士免許、栄養教諭免許、健康管理士一般指導員資格に関する単位を修得できる。

（4）基礎科目と専門科目並びに学外（校外）実習を通して、病院や福祉施設、給食施設等の現場で求められる高度な専門的知識と技術、実践力、応用力を修得する。

（5）課外・学外活動を通して専門職に求められる主体性、思考力、創造力、問題解決能力、社会性を養い、自己に適した職業、職種を選択できる。

保育科の学習成果

（1）近年、家庭や社会の変化が子どもの人格、精神発達、生活習慣等に影響を及ぼし、様々な問題が生じている。保育活動や保護者との対話、地域社会における活動の中でそれらの課題を捉え、その解決に向けて適切に対応し得る、保育・幼児教育の専門家を目指す。

（2）基礎科目と専門科目のカリキュラムにおいて卒業要件単位を修得できる。

（3）基礎科目と専門科目のカリキュラムにおいて幼稚園教諭免許、保育士資格に関する単位を修得できる。

（4）基礎科目と専門科目並びに学外実習を通して、保育や幼児教育の現場で求められる高度な専門的知識と技術、実践力、応用力を修得する。

（5）課外・学外活動を通して専門職に求められる主体性、思考力、創造力、問題解決能力、社会性を養い、自己に適した職業、職種を選択できる。

定期試験の受験資格は、講義及び演習の授業回数の2/3以上、実験、実習等については4/5以上出席しなければ受験することができない。又、追試験、再試験による成績評価がある。

GPA（グレードポイントアベレージ）

成績評価	試験等の点数	GP
秀	90点以上100点まで	4
優	80点以上89点まで	3
良	70点以上79点まで	2
可	60点以上69点まで	1
不可	60点未満	0

※　GPA（グレードポイントアベレージ）とは、

個々の授業科目の成績評価にそれぞれ

GP(グレードポイント）を与え各授業科目の

GP×単位数の和を総単位数で除して算出したもの

$$GPA = \frac{(\text{A科目のGP} \times \text{単位数}) + (\text{B科目のGP} \times \text{単位数})}{\text{総単位数}}$$

授業科目にかかる卒業に必要な修得単位数

食物栄養科基礎科目

授業科目	授業形態・開設単位			卒業要件	栄養士要件		栄養教諭要件	
	講義	演習	実験・実習・実技					
文章表現		2		必修	必修		必修	
心理学の世界	2					選択		選択
生活と法律	2				必修		必修	
国際文化	2							
食科学の基礎	2				必修		必修	
食科学の応用		2			必修		必修	
情報処理		2		必修	必修		必修	
芸術鑑賞 ・ 教養講座 Ⅰ		1		必修				
芸術鑑賞 ・ 教養講座 Ⅱ		1		必修				
英語 Ⅰ		2		} 必修	} 必修		} 必修	
フランス語 Ⅰ		2						
英語 Ⅱ		2				} 選択		} 選択
フランス語 Ⅱ		2						
英語 Ⅲ		2				選択		選択
体育理論	1					選択	必修	
体育実技			1			選択	必修	
キャリア教育		2		必修		選択		選択
合　計				12以上	12以上		16以上	

食物栄養科専門科目

授業科目	授業形態・開設単位			卒業要件	栄養士要件		栄養教諭要件	
	講義	演習	実験・実習・実技					
公衆衛生学	2				必修		必修	
社会福祉概論	2				必修		必修	
解剖学	2				必修		必修	
生理学	2				必修		必修	
解剖生理学実習			1			選択		選択
生化学	2				必修		必修	
生化学実験			1		必修		必修	
運動生理学	2				必修		必修	
食品学総論	2				必修		必修	
食品学各論	2				必修		必修	
食品衛生学	2				必修		必修	
食品衛生学実験			1		必修		必修	
食品学実験 Ⅰ			1		必修		必修	
食品学実験 Ⅱ			1		必修		必修	
栄養学総論	2				必修		必修	
栄養学各論	2				必修		必修	
栄養学実習			1		必修		必修	
小児 ・ 福祉調理実習			1		必修		必修	
臨床栄養学	2				必修		必修	
臨床栄養学実習			1		必修		必修	
健康管理概論	2				必修		必修	
栄養指導論 Ⅰ	2				必修		必修	
栄養指導論 Ⅱ	2				必修		必修	
栄養指導実習			1		必修		必修	
公衆栄養学	2				必修		必修	
調理学	2				必修		必修	
調理学実習Ⅰ			1		必修		必修	
調理学実習Ⅱ			1		必修		必修	
給食経営論	2				必修		必修	
給食実務論	2				必修		必修	
給食実習Ⅰ			1		必修		必修	
給食実習Ⅱ			1		必修		必修	
給食実習Ⅲ			2		必修		必修	
給食実習Ⅳ			2			選択		選択
学校栄養指導	2						必修	
教職概論	2						必修	
教育原理	2						必修	
教育心理学	2						必修	
特別支援教育概論	1						必修	
教育課程論 ・ 道徳教育	2						必修	
特別活動・総合的な活動	1						必修	
教育の方法と技術		2					必修	
生徒指導論 ・ 教育相談	2						必修	
教職実践演習		2					必修	
栄養教育実習			2				必修	
調理科学演習		2						
ﾌｰﾄﾞｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ論		2						
自主研修		4						
合　計				50以上	52以上		72以上	

保育科基礎科目

授業科目	授業形態・開設単位			卒業要件	保育士要件		幼稚園教諭要件	
	講義	演習	実験・実習・実技					
文章表現		2		必修	必修		必修	
心理学の世界	2					選択		選択
くらしと憲法	2				必修		必修	
国際文化	2							
手話		2				選択		選択
情報処理		2		必修	必修		必修	
芸術鑑賞・教養講座 Ⅰ		1		必修				
芸術鑑賞・教養講座 Ⅱ		1		必修				
英語 Ⅰ		2		} 必修	} 必修		} 必修	
フランス語 Ⅰ		2						
英語 Ⅱ		2				} 選択		} 選択
フランス語 Ⅱ		2						
英語 Ⅲ		2				選択		選択
体育理論	1				必修		必修	
体育実技			1		必修		必修	
キャリア教育		2		必修		選択		選択
合計				12以上	12以上		12以上	

保育科専門科目

授業科目	授業形態・開設単位			卒業要件	保育士要件		幼稚園教諭要件	
	講義	演習	実験・実習・実技					
保育原理	2				必修			選択
教育原理	2				必修		必修	
子ども家庭福祉	2				必修			
社会福祉	2				必修			
子ども家庭支援論	2				必修			
社会的養護Ⅰ	2				必修			
保育者論	2				必修		必修	
教育・保育心理学	2				必修		必修	
子ども家庭支援の心理学	2				必修			
幼児理解と援助		1			必修		必修	
子どもの保健	2				必修			
子どもの食と栄養		2			必修			
保育・教育課程論	2				必修		必修	
幼児と健康	1						必修	
幼児と人間関係	1						必修	
幼児と環境	1						必修	
幼児と言葉	1						必修	
幼児と表現	2						必修	
保育内容総論		1			必修		必修	
健康（指導法）		1			必修		必修	
人間関係（指導法）		1			必修		必修	
環境（指導法）		1			必修		必修	
言葉（指導法）		1			必修		必修	
表現（指導法）		1			必修		必修	
音楽Ⅰ		2			必修		必修	
音楽Ⅱ		1				選択必修		選択
身体表現		1			必修		必修	
幼児造形Ⅰ		1			必修		必修	
幼児造形Ⅱ		1				選択必修	必修	
乳児保育理論	2				必修			
乳児保育		2			必修			選択
子どもの健康と安全		1			必修			
特別支援教育・障がい児保育		2			必修		必修	
社会的養護Ⅱ		1			必修			
保育相談支援		1			必修			選択
保育実習指導Ⅰ（保育所）		1			必修			
保育実習指導Ⅰ（施設）		1			必修			
保育実習Ⅰ（保育所）			2		必修			
保育実習Ⅰ（施設）			2		必修			
保育実習指導Ⅱ		1			} 必修			
保育実習指導Ⅲ		1						
保育実習Ⅱ			2		} 必修			
保育実習Ⅲ			2					
保育・教職実践演習		2			必修		必修	
保育方法論	2					選択必修	必修	
教育・保育相談	2					選択必修	必修	
教育・保育社会学	2					選択必修	必修	
児童文学	2					選択必修		選択
音楽総合表現		2				選択必修		選択
図画工作		2				選択必修		選択
保育実践研究		2				選択必修		
教育実習			5			選択	必修	
自主研修		2						
合計				50以上	61以上		51以上	

単位制

単位は、一定の勉学の質や学習量を示す基準であり、次の計算方法による。

科目種別(授業の形態)	授業時間数	単位数
講義科目	15時間	1単位
演習科目	15～30時間	
実験・実習・実技科目	45時間	

単位授与の要件

① 履修登録がなされていること。
② 出席回数が講義・演習は授業実施時間数の2/3以上、実験・実習・実技は4/5以上であること。
③ 成績評価が合格に達していること。
④ 当該学期の授業料が納入されていること。

卒業要件単位と免許･資格要件単位

- 卒業要件単位は、保育科及び食物栄養科共に卒業業要件単位の必修科目を含め、基礎科目12単位以上、専門科目50単位以上の合計62単位以上の修得が必要。
- 食物栄養科では、栄養士免許、栄養教諭二種免許、保育科では、幼稚園教諭二種免許、保育士資格の取得が可能。

7．校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

光塩学園女子短期大学	校地面積	校舎面積
真駒内・西岡	14,494 ㎡	12,854 ㎡

アクセス

地下鉄の南北線真駒内駅（札幌駅から１８分）で下車し、徒歩約１２分、中央バスやじょうてつバスも運行しており、利用できる。

8．授業料、入学料その他大学が徴収する費用に関すること

学生納付金（年額）

授業料等				その他の納付金	
入学金	２００，０００円（1年次のみ）			給食費	９０，０００円
授業料	７００，０００円			光友会入会金(1年次のみ)	６００円
施設費	１２０，０００円			光友会費	２，４００円
維持費	１４０，０００円			同窓会費	５，０００円
実験実習費	食物栄養科	１年生１２０,０００円	２年生１４２,０００円	災害傷害保険料(1年次のみ)	２，４７０円
	保育科	１年生１３０,０００円	２年生１５４,０００円		

9．大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に関すること

（１）学年暦予定

４月	入学式、健康診断、短大行事
５月	保育科２年保育実習
６月	創立記念日、バドミントン大会 食物栄養科2年給食実習、保育科2年保育実習
７月	食物栄養科2年給食実習、栄養教育実習 保育科2年保育実習、前期試験
８月	前期試験、夏季休業、食物栄養科2年給食実習 保育科２年教育実習
９月	夏季休業、食物栄養科2年給食実習 保育科2年教育実習、前期試験(保2)
１０月	入学試験（総合型Ⅰ期）、保育科1年保育実習
１１月	入学試験（学校推薦型、社会人A） 短大行事、保育科1年保育実習
１２月	入学試験（総合型Ⅱ期）、バレーボール大会 冬季休業
１月	冬季休業、後期試験、入学試験（総合型Ⅲ期）
２月	入学試験（一般Ⅰ期、社会人B） 後期試験(保1)
３月	入学試験（社会人C）、学位記授与式

補講、特別授業、集中講義等を予定している。

（2）学長表彰

学業や社会活動などで重ねてきた努力の成果を評価し、優秀な成績を人物的に優れ、他の学生の模範となる学生を表彰	〔副賞〕 授業料の一部免除

（3）学友組織

在籍学生により構成される学友組織として光友会があり、選出された学生からなる光友会役員により大学祭等様々な主催行事やクラブ・同好会活動の運営等にあたっている。

（4）オリエンテーション

入学直後に２日間にわたってオリエンテーションを設定し、建学の精神から教育目的、目標等について、大学生の心構え、大学の組織、各部の業務とのかかわり、ADシステム、 給食、健康管理、相談室等学生生活全般にわたる内容について説明している。

（5）奨学金

イ．日本学生支援機構　**給付奨学金･･･返済義務なし**

貸与奨学金･･･返済義務あり（無利子（第一種）、有利子（第二種））

2024年度採用者　　6月1日現在

給付奨学金	貸与奨学金		合　計
	第一種（無利子）	第二種（有利子）	
10名	13 名	13 名	36 名

ロ．札幌市・・・・・・札幌市内の大学及び短期大学に在学する学生が対象。返還義務なし。

ハ．光塩学園奨学金・・・・特待生、経済状況の急変、本学園卒業関係者、教職員子女に対する奨学金。返済義務なし。

ニ．保育士修学資金・・・・北海道社会福祉協議会及び札幌市社会福祉協議会が行っている保育士修学資金貸付制度。
卒業後保育士の登録を行い、一定期間保育所等に勤務した場合、返還が免除される。

（6）海外研修

昭和５４年から海外研修旅行を実施している。訪問国では、高齢者福祉施設や幼児教育に関わる施設などでの研修を通して、各国の福祉政策や福祉の実情、 幼児教育に対する取り組み、食育等について学び、国際理解を深めさせている。
（2021、2022、2023年度は中止）

（7）カウンセリング

ADと呼ばれるグループにアドバイザー教員（AD教員）を配置し、授業や進路、就職はもちろん学生のどんな相談にも応じている。又、相談室「オアシス」では毎週専門のカウンセラーが健康や生活、精神面での悩みなどに対応している。

１０．その他

学校法人光塩学園

（1） 事業報告

１８歳人口の激減とコロナ禍での社会不安による入学生の大幅な減少が続くなか、本学園の教育目標である社会に求められる人材育成と資格取得を目指し、困難な状況の中でも可能な限りの教育活動を行った。

（2）令和５年度計算書類

学校法人と企業法人の違いについて

学校法人は、学校教育法及び私立学校法に基づき、私立学校の設置目的による教育研究活動事業を主とする法人で極めて公共性の高い経営主体であり、営利を目的とし損益を重視する企業会計とは異なっている。

学校法人会計を用いることで、教育研究活動を円滑に遂行するため資金の収入と支出を明らかにすることができる。

学校法人が作成する書類として資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表の三表が定められており、企業会計には無いものである。

企業会計は、損益を正しく計算して企業の営業成績及び財政状態を利害関係者に開示することが目的であり、学校法人会計との目的が相違している。

① 資金収支計算書

当年会計年度の諸活動に対する全ての収入と支出の内容並びに当該会計年度に係る収入と支出を明らかにし、支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金をいう。）の流れを明らかにしたものである。収入、支出それぞれ予算額と決算額それぞれ比較したもの。

令和５年度決算における収入の部、学生生徒納付金収入4億3,911万3千円、補助金収入2億9,732万7千円、前受金収入2億451万2千円など、これに前年度からの繰り越した支払金42億2,595万6千円を加え収入の の部の合計は、 52億9,095万8千円となる。

支出の部は、人件費支出5億3,791万円、教育研究費支出2億2,606万円、管理経費支出2億5,978万3千円などの支出により合計52億9,095万8千円となり、令和６年度への支払い資金として39億1,563万1千円を繰り越すことになる。

収支決算書　（※千円未満を切り捨てているため主な内訳の計と合計が一致しない場合がある。以下同じ。）

資金収支決算概要　（単位千円）

収入の部合計	5,290,958	学生納付金、手数料、寄付金、補助金、事業、受取利息・配当金、雑収入、前受金、その他の収入、前年度繰越資金

（主な内訳）	学生納付金	439,113
	補助金	297,327
	前受金	204,512
	他の収入の計	124,048
	前年度繰越支払資金	4,225,956

（単位千円）

支出の部合計	5,290,958	人件費、教育研究経費、管理経費、施設・設備、資産運用、その他の支出、翌年度繰越支払資金

（主な内訳）	人件費	537,910
	教育研究経費	226,060
	管理経費	259,783
	他の支出の計	351,571
	翌年度繰越支払資金	3,915,631

② 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書とは、資金計算書に記載される資金収入及び資金支出の決算の額を次に掲げる活動ごとに区分して記載するものである。

一　教育活動

二　施設若しくは設備の取得又は売却その他これらに類する活動

三　資金調達その他前二号に掲げる活動以外の活動

イ　教育活動

（単位千円）

収入の部合計	819,014	学生納付金、手数料、寄付金、経常費補助金、付随事業、雑収入

（主な内訳）	学生納付金	439,113
	経常費補助金	297,327
	付随事業	39,041
	他の収入の計	43,531

（単位千円）

支出の部合計	1,023,754	人件費、教育研究経費、管理経費

（主な内訳）	人件費	537,910
	教育研究経費	226,060
	管理経費	259,783

ロ　施設整備等活動

（単位千円）

収入の部合計	0	

（主な内訳）　0

（単位千円）

支出の部合計	17,188	施設関係、設備関係、長期前払

（主な内訳）

施設関係	10,247
設備関係	2,452
長期前払	4,488

ハ　その他の活動

（単位千円）

収入の部合計	254,764	退職給与引当特定資産取崩、施設維持引当特定資産取崩 預り金受入、仮払金回収、仮受金受入 受取利息・配当金、為替換算差益

（主な内訳）

施設維持引当特定資産取崩	49,000
預り金受入	200,212
仮払金回収	2,303
その他	3,248

（単位千円）

支出の部合計	331,724	退職給与引当特定資産繰入、有価証券購入 預り金支払、仮払金支払 仮受金支払、国際交流基金引当特定資産繰入

（主な内訳）

退職給与引当特定資産繰入	4,844
預り金支払	199,822
有価証券購入支出	121,000
仮払金支払	2,303
その他	3,753

③　事業活動収支計算書

事業活動収支計算の目的は、毎会計年度、当該会計の教育活動、教育活動以外の経常的な活動及びこの２点以外の活動に対応する事業活動収入並びに事業活動支出の内容を明らかにするとともに当該会計年度において基本金組入額を控除した当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにするため行うものである。

事業活動収入

学生の納付金や手数料、補助金などの学校法人の負債とならない学校法人に帰属する収入で、将来返済を求められる借入金は含まれない。

基本金組み入れ額

学校法人がその諸活動の計画に基づき、教育研究の維持・充実に必要な資産を継続的に保持するために確保しなければならない金額をあらかじめ差し引くことをいい、純粋な学校法人の事業活動収入のうちから基本金への組み入れた額になる。基本金は、学校法人会計基準において、次の４つに分類することができる。

・第１号基本金・・・校地、校舎、機器備品、図書などを取得した固定資産の価額
・第２号基本金・・・固定資産を取得するために留保した預金などの資産の額
・第３号基本金・・・奨学金、研究基金として継続的に保持し運用する資産の額
・第４号基本金・・・学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額

事業活動支出

事業活動支出は、人件費や教育研究費、管理経費、借入金利息などの支出で、建物や備品など年の経過により資産価値が減少する原価償却費が含まれる。

令和５年度の事業活動収入計は8億2,024万3千円、事業活動支出計は11億8,752万1千円であり、収支差額は△3億6,727万8千円で、収支差額から基本金組入額△1,643万7千円を控除して、当年度収支差額は3億8,371万5千円が支出超過となる。

また、翌年度繰越収支差額は、当年収支差額△3億8,371万5千円と前年度繰越収支差額△1億2,715万3千円と基本金取崩額217万5千円を加えた△5億869万3千円となる。

イ　教育活動

事業活動収入		（単位千円）		
収入の部合計	819,014	学生納付金、手数料、寄付金、経常費補助金、付随事業、雑収入、		
		（主な内訳）	学生納付金	439,113
			経常費補助金	297,327
			付随事業	39,041
			他の収入の計	43,531
事業活動支出		（単位千円）		
支出の部合計	1,186,784	人件費、教育研究経費、管理経費、徴収不能額		
		（主な内訳）	人件費	541,489
			教育研究経費	358,349
			管理経費	286,366
			徴収不能額	579
教育活動費収支差額	△367,770千円			A

ロ　教育活動外

事業活動収入			
収入の部合計	1,229千円	受取利息・配当金 等	
事業活動支出			
支出の部合計	0円		
教育活動外収支差額	1,229千円		B
経常収支差額	△366,541千円	(A+B)	C

ハ　特別収支

事業活動収入					
収入の部合計	0円				
事業活動支出					
支出の部合計	736千円	資産処分差額			
特別活動収支の差額	△736千円				D
基本金組入前当年度収支差額	△	367,277千円	(C+D)	・・・・	E
基本金組入額合計	△	16,437千円		・・・・	F
当年度収支差額	△	383,714千円	(E+F)	・・・・	G
前年度繰越収支差額	△	127,153千円		・・・・	H
基本金取崩額		2,175千円		・・・・	I
翌年度繰越収支差額	△	508,692千円	(G+H+I)	・・・・	J

④　貸借対照表の状況

年度末における資産、負債、純資産に属する項目を金額で示し、学校法人の財政状態を明らかにしたものである。

資産の部

資産は、貸借対照表日（当該年度末）後１年を超えて使用（現金化）される資産又は現金化されることを目的としない資産の固定資産と１年以内に使用（現金化）される資産の流動資産がある。

固定資産

有形固定資産とその他の固定資産に区別され、有形固定資産は当該年度末より後に１年を超えて使用する目的で所有する資産をいい、耐用年数が１年未満になっているものでも使用中のものが含まれる。

負債の部

財産の調達先のうち、将来返済しなければならない債務である。

令和５年度の資産の部の合計は、100億202万円、負債の部の合計は、4億678万円、資産から負債を差引いた貸借対照表の純資産は、95億6,524万円となり、前年度と比較して3億6,727万8千円の減である。

貸借対照表

資産の部		（単位千円）
固定資産	6,046,229	有形固定資産、特定資産、その他の固定資産
流動資産	3,955,791	
合計	10,002,020	

負債の部		（単位千円）
固定負債	158,072	
流動負債	248,708	
合計	406,780	

純資産の部		（単位千円）
基本金	10,103,933	第１号基本金、第３号基本金、第４号基本金
繰越収支差額	△ 508,693	翌年度繰越収支差額
純資産の部合計	9,595,240	

負債及び純資産の部合計　10,002,020 千円

⑤　財産目録

貸借対照表の資産や負債について、具体的内容を表したもので、学校法人が所有する土地や建物の面積、図書の冊数等を知ることができる。

財産目録

資産額		（単位千円）	
基本財産	4,799,127	土地、建物、構築物、教具、図書、車輌、建設仮勘定 借地権、電話加入権、ソフトウェア	
（主な内訳）	土地	150，518.35㎡	1,197,934
	建物	23，242.27㎡	2,971,320
	構築物	84件	17,719
	教具・校具・備品	10,733点	177,029
	図書	49,902冊	123,124
	借地権ほか		311,999

運用財産		（単位千円）	
	5,202,893		預金・現金、未収入金、前払金、貯蔵品、特定資産 有価証券、出資金、地金、リサイクル預託金
資産総額　計	10,002,020	（A）	長期前払費用

負債額		（単位千円）	
固定負債	158,072		退職給与引当金
流動負債	248,708		短期借入金、前受金、未払金、預り金
負債総額　計	406,780	（B）	

正味財産　9,595,240千円　（A）－（B）

⑥　監査報告

選任された監事２名による監査結果は、適切である旨の監事監査報告書により学校法人光塩学園の理事長宛に提出され保管している。

（３）第三者認証評価

本学は、平成21年度、平成27年度に財団法人短期大学基準協会による第三者認証評価を受け適格と認定され、令和４年度に３回目の第三者認証評価を受け、適格と認定された。